

# 芦安ファンクラブ通信

第17号  
特集号

NPO法人

芦安ファンクラブ

南アルプス市芦安

芦会1589-8

## 南アルプス国立公園指定 四〇周年記念 市毛良枝 さんが講演

六月二十五日(金)南アルプス市あやめホールで、南アルプス国立公園指定四〇周年記念行事が開催されました。

式典では、南アルプス市長の挨拶に続いて、関係者の祝辞がありました。長野県の長谷村町長の「雄大な南アルプスは郷里の父であり母であり、誇りである。安易な妥協はない」との強い使命感をもった言葉が印象的でした。



基調講演で聴衆を魅了した市毛良枝さん

講演では、市毛良枝さんが「山なんか嫌いだ」と題して、山と縁のない生活から山にすっかり魅せられた現在までのエピソードを披露してくださいました。「最近南極へ行ってきたが、楽々として行ってしまったことに後悔している。山とはロープウエーで簡単に登るのではなく、体力をつけ努力して行く所であって欲しい。誰もが立ち入れない所があつてもよい」「私は私、山は捨てられないけど仕事は捨てられる。お金は最低限あればよい」と、女優さんらしくらぬ強い姿勢に驚きました。実際、市毛さんは昨年、単独でテントと食料を背負って南アルプスの聖岳から千枚岳まで五日間縦走し、「生きる自信」を深めたようです。講演後市毛さんの著書が飛ぶように売れ、お手伝いをした芦安ファンクラブ員は嬉しい悲鳴をあげていました。



充実したシンポジウム風景

シンポジウムは「南アルプスよ永遠に」と題して、環境省より関山和敏氏、気象予報士村山貢司氏、県山岳連盟会長内藤順造氏、南アルプス市長石川豊氏をパネラーとしてお招きし、芦安ファンクラブ会長花岡利幸氏のコーディネートで、南アルプス国立公園の自然保護と適正利用を考えました。稀少植物や動物の激減、山のトイレ問題や今後の登山人口減少を予測しての里山の魅力再発見などが話し合われました。

記念コンサートは地元桃源交響楽団によつて、山にゆかりのある曲目が披露されました。  
記 芦安ファンクラブ 雨宮

## 南アルプス開山祭開催!

恒例の南アルプス開山祭が南アルプス市芦安金山沢公園で約二百人の参加のより開催された。本来は北岳登山口広河原で行なわれていたものだが、南アルプス林道通行止めの為に昨年同様山麓の芦安で行なわれた。しかし今年は、七月中下旬から南アルプス林道のマイカー規制付通行可能の朗報が六月二十五日の協議会で決定された。開会で石川市長は「合併後待ちに待ったが関係者の協力により開通出来た。今後は環境面を考慮した南アルプス観光振興を充実させ、世界遺産をも視野に入れた南アルプスにしたい」と挨拶。関係者の祝辞の後、山岳振興への先駆者と山を愛し山で逝つてしまった方々に献花が行なわれた。



安全祈願文を読み上げる明彦時代のコスチュームの案内人達

芦安中学生による「北岳の歌」等の合唱に続き、勇壮な夜叉神太鼓が保存会により演奏された。開山の儀式「つる払い」は平成十六年度区長会長長森本氏によつて切り払われた。安全登山を祈念し全員で「つる」をくぐり、芦安手打ちそばの会「甲斐ヶ峰庵」の「うど天入りそば」をいただきお開きとなった。今年の入山者の安全を祈りたい。

第十回登山教室を櫛形山で

開催 座本氏に皆勤感謝状贈呈

六月二十六日、二十七日(日)節目を迎えた第十回の登山教室が南アルプス国立公園指定四〇周年記念大会と開山祭との流れの中で実施された。詰ったスケジュールの中ではあったが、研修会では当教室講師三回目の気象予報士村山貢司氏が「山と気象」のテーマで山における気象、特に台風と雷についてのお話を、また国立環境研究所の名取俊樹氏が研究テーマの「キタダケソウ」について熱心な講話があり、いつもながら充実した時を過ごした。翌日の山行は丸山経由で櫛形山へ向った。なんとと言っても裸山のアヤマの群生は絶景であった。当教室でこれほどの花に出会ったのは初めてである。



村山貢司氏による気象学の講演

無事下山し、南アルプス芦安山岳館で修了証書授与の後、今回で十回全参加の座本氏へファンクラブから感謝状と花束が送られた。参加者二十一人、スタッフ十七人、それぞれお疲れ様でした。秋の第十一回登山教室は念願の北岳で実施する予定です。多くの参加者と楽しいものにして行きたいと思っています。

記 芦安ファンクラブ清水毅



咲きそろっていた裸山のアヤマたち

『登山教室十回参加の感動』

神奈川県 座本喜一

平成九年四月、縁あって山紫水明の地、山梨県内に転勤になり、終日甲府盆地から周囲の山々を仰ぐことになり、登って見たい気持ちに駆られている時、当登山教室開催の報に接し、「初歩から学べる」との事でしたので早速申し込みました。第一回に参加し、その周到な準備、清水村長を始め村を挙げての歓迎振りとはスタッフの多い事に感動しました。一日目の



花岡会長より感謝状を受け取る座本喜一氏

室内研修科目も多岐にわたり、講師も専門分野の先生方で内容も豊富なことに感激し、大変勉強になりました。山行では各班毎に数人のスタッフをサポートしてくれ、手を取り、足を取りのお世話をいただきながら雨の栗沢山に登頂でき、一瞬の雲の切れ間から甲斐駒ヶ岳を始めて間近に見たときの感動は今でも目に焼き付いています。その時、いずれあの山にも、と思ったものでした。修了式では手作りのりっぱな修了証書が花岡会長から参加者各自に手渡された事にも感激し、ビールで乾杯しながら歓喜に溢れたものでした。

これらのことは第二回以降も実施され、回を重ねる毎にスタッフ・関係者のご努力で全ての面で充実し、参加者も増加の一途を辿り、顔なじみも多くなり毎回の出会いが楽しみになってきました。今十枚の受講修了証・集合写真・資料等を見ると、時々室内研修や山行が思い起こされます。中には全国ポランティアフェスティバルに参加し夜叉神峠登山道の樹木への樹名板設置や千頭星山の芦安への下山道の笹刈り、高谷山くカンバ平での地元の皆さんによる豚汁のサービスタなどの特別企画も懐かしく思い出され、山とともに多くの地元の方々、参加者の皆さんとの出会いが何よりも尊いものと思っています。

私事ですが、第一回から第十回まで連続参加させていただいたところ、この度、花岡会長及びスタッフの皆さんより感謝状と特大の花束等の贈呈を受け、感謝感激の思いでいっぱいです。この感謝状等に対しては、会長を始めスタッフの皆さんと一緒に参加されたみなさんにこの紙面を拝借し何十倍にもして感謝の心をお返しします。ありがとうございます。終わりに引き続き山を愛し、自然を尊び、人と人との出会いを大切にしつつ、併せて南アルプス市・NPO芦安ファンクラブのますますの発展を祈念します。



タカネグンナイフーロ (北岳)

## 海外修学旅行を終えて

芦安中学校教諭 仙洞田和樹

オーストラリアへの海外修学旅行は、今年度で二回目であった。今回は、平成十六年二月二十五日から三月一日の期間に五泊六日で実施し、シドニー市内のホテルを拠点にリバーストンハイスクールとの学校交流とホームステイ、及びシドニー市内及び郊外のブルーマウンテンズの見学などを行った。

三日目の学校交流は、駐車場でのホームステイ先の生徒三名と担当教師との対面から始まった。ホールでの歓迎会では、合唱(ホール・ニュー・ワールド)や「もみじ」などの童謡を対象者の二つの学年に披露し、生徒全員から大きな拍手をもらった。又、芦安中学校の紹介ビデオも興味深く見入っていたようだった。授業の中で交流では、特に日本の昔の遊び(折り紙、竹とんぼ、こまなど)の紹介の場面で、英語での説明に苦労しながらも一生懸命頑張った本校の生徒と積極的に行動する交流校の生徒の姿が印象に残っている。電子メールでの交流内容のやりとりや講師を招いての竹とんぼの製作、折り紙の練習、説明文の英訳など、事前の準備に多くの時間を費やした事が報われて交流校の生徒が非常に喜んでくれた事に、生徒は大きな達成感を感じたようだ。

その後のホームステイでも、夜のバーベキューパーティを開いていたり、翌日に動物園やオリンピックパークなどの入場料の高い場所に家族全員で連れてつてもらったりと暖かみのある交流が出来たようだ。初めは緊張しながら片言の英語を使っていた生徒が、ホームステイ中たくさんの会話をし、たった一日だったのに別れ際に感動的な場面も見られるほどの充実した二

日間だったようだ。又、ホームステイを終えた四日目のハーバーサイドでの夕食も思い出深い物になった。大きな不安があった学校交流とホームステイを無事乗り越えた充実感にあふれた実生き生きとした顔で、ホームステイ中のことを夢中で話していた生徒の様子は、この旅の成功と生徒の成長を実感出来る物であった。

二日目のシドニー市内の見学と五日目のブルーマウンテンズの見学では、迫力のあったシドニー水族館やオーストラリア特有の動物とふれあえたフェザードル動物公園、雄大な景色のスリーシスターズなどが印象深かった。その他にも、荘厳なセントメアリー大聖堂、真つ青でどこまでも続いているような空、華やかな港の夜景と満天の星空など、広大なオーストラリア大陸の文化や自然の一端を肌で感じる事が出来たことも大きな収穫だったと思う。

健康面では、途中体調を崩す生徒が出てしまったが、昨年度の反省を生かして用意していったレトルトのお粥や粉末のスपोर्टドリンクが大いに役立った。又、具合が悪くなっても他の生徒に迷惑がかけないように頑張る姿や周りの生徒の励ましなど、微笑ましい光景を多く見ることが出来、旅を通して生徒同士の絆もより深い物になったようだ。

最後に、今回の海外修学旅行を陰で支えてくださった地域の方々や市の関係者の方、熱心に教えて頂いたり色々な配慮までしていただいた講師の山村さんやソル先生、親切に契約以外の仕事をしてくださったガイドの杉崎さんを始め旅行業者の方、暖かく迎えてくださったリバーストンハイスクールの生徒諸君とホストファミリーの方や職員の皆様など、多くの方々にお世話になったことを忘れずに、今回の成果をさらに発展させていきたいと思う。

本当に有り難うございました。  
平成十六年三月



お世話になった人達と。特色有る教育が地域の個性です。

えてもらいました。学校交流はすごく良い体験でした。ホームステイはすごく緊張したけど、ホームステイ先の家族やクリスマスにすごく親切にしてもらい、すぐ緊張が解けました。僕は修学旅行で、ホームステイが一番楽しかったです。

ホームステイ中、英語が分からない時、英語を日本語に訳すソフトを使ってくれ嬉しかったです。家族とお別れの時、とても寂しくなりました。ホストファミリーの方の思いやりをすごく感じました。とても楽しい旅行でした。行くことが出来て良かったです。

ホームステイの家族とお別れの時、僕は思わず泣いてしまいました。その日の夜、友達と遅くまで語り合いました。この六日間、僕たちにとつて遠く知らない異国での修学旅行は、とても楽しく、英語の勉強にもなり、祖国の暖かみを感じられるものでした。この旅行で、二年生の仲がとて深まり、異文化の人とも仲良くなれました。オーストラリアに一ヶ月くらい滞在してみたいと思いました。この修学旅行は最高に楽しかったです。



「生徒の文章(抜粋)より」  
オーストラリアの学校は、みんなが明るく元気ですごく活気がありました。たった一日のホームステイですが、楽しい思い出になりました。  
ブルーマウンテンでは、日本では味わうことのない雄大な景色を見る事が出来て、すごく気持ち良かったです。  
一日一日がとても充実していて、毎日が短く感じました。今度は英語をたくさん覚えて、家族と一緒にオーストラリアに行きたいです。  
オーストラリアの授業の見学や体験を通して、色々なことを学びました。生徒会長さんなどとても親切で、色々なことを教

# 二〇〇四・南アルプス北 部夏山情報 (北岳)

## ※早すぎる山の夏!

六月十五日、資材荷揚げのヘリコプターの重い羽音を聞きながら、北岳に入った。

北岳山荘西側の残雪も

少なく、山荘からトラバース道分岐までのルートには全く残雪がなく驚いた。すでにキタダケソウは斜面を白く染めて満開の時期は過ぎたかに感じられた。

南東の斜面に咲き誇るキタダケソウは実醤油の実みごとで残雪の間ノ岳との共演で本当に美しい景色です。この美しい自然を

未来に残しておきたいと心から思わずにはいられませんでした。山荘の人達と生育地保護の為にロープ張りの作業を行いながら山頂へと向いました。ハクサンイチゲ、オヤマノエンドウ、チシマアマナ、キバナノシヤクナゲ、キンポウゲ等が咲き始め、気の早いミヤマオダマキを二、三株咲き出しているのには驚いた。

やはり温暖化の影響かと感じました。

トラバース道より吊尾根分岐までのルートは落石、土砂の流れ出しなどで登り辛いが美しく咲くキタダケソウ等の花々を見ながら山頂に着く。



平年より二週間程早いキタダケソウと間ノ岳 (撮影宮下氏)



ミヤマオダマキ

例年、残雪が有るのに全く無く、クモナズナ、キンポウゲ、ハクサンイチゲ等が咲いていた。両俣分岐から見える肩の小屋の屋根には布団や毛布など干してあり、山の風物詩を感じた。小太郎尾根の分岐までのルートにはハクサンイチゲ、オヤマノエンドウ、キンポウゲ等々の花が彩りはじめていた。草すべり上部のシナノキンバイも咲き始め黄金の斜面を彩るのも間近であろうかと感じられた。

白根御池の周りは岳樺の新緑と、ナナカナドの白い花が美しく、池の水面にその姿を映し、何とも言えない静寂さを感じ、本当に山の良さを心の底から味わいながら広河原へと下山した。

## 夏山を彩る花達



ミヤマハナシノブ



キバナノコマノツメ



タカネバラ